

DENON

PMA-2000RE

プリメインアンプ

取扱説明書

- お買い上げいただき、ありがとうございます。
- ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくご使用ください。
- お読みになったあとは、いつでも見られるところに「保証書」・「製品のご相談と修理・サービス窓口のご案内」と共に大切に保管してください。
- この製品は出張修理対象製品です。詳しくは「保証と修理について」(P.20 ページ)をご覧ください。

ご使用になる前に

お買い上げいただきありがとうございます。お読みになったあとは、いつでも見られるところに大切に保管してください。

安全上のご注意

正しく安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずよくお読みください。

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その絵表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

絵表示の例

図の中や近傍に具体的な禁止内容が描かれています。



感電注意

△記号は注意（危険・警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。



分解禁止

⊘記号は禁止の行為であることを告げるものです。



電源プラグをコンセントから抜く

●記号は行為を強制したり指示したりする内容を告げるものです。

警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



万一異常が発生したら、電源プラグをすぐに抜く

- 電源プラグをコンセントから抜く
- 煙や異臭、異音が出たとき
 - 落としたり、破損したりしたとき
 - 機器内部に水や金属類、燃えやすいものなどが入ったとき

そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに本体と接続している機器の電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いて、安全を確認してから販売店にご連絡ください。お客様による修理などは危険ですので絶対におやめください。



ご使用は正しい電源電圧で

表示された電源電圧以外で使用しないでください。必ず実施
火災・感電の原因となります。



電源コードは大切に

電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したりしないでください。また、重いものをのせたり、加熱したり、引っ張ったりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。電源コードが傷んだら、すぐに販売店に交換をご依頼ください。



電源プラグの刃および刃の付近にはほりや金属物が付着しているときは

必ず実施
電源プラグをコンセントから抜いて、乾いた布で取り除いてください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。



火気禁止

火や炎を近づけない

本機の上でろうそくを灯す・タバコの灰皿を使用するなどの火や炎の発生しているものを置かないでください。火災の原因となります。



禁止

内部に水などの液体や異物を入れない

機器内部に水などの液体や金属類、燃えやすいものなどを差し込んだり、落としたりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。



水ぬれ禁止

水滴や水しぶきのかかるところに置かない

雨天・降雪中・海岸・水辺での使用は特にご注意ください。水がかかったり、濡れた状態で使用すると火災・感電の原因となります。



分解禁止

ねじを外したり、分解や改造したりしない

内部には電圧の高い部分がありますので、火災・感電の原因となります。内部の点検・調整・修理は販売店にご依頼ください。



接触禁止

雷が鳴り出したら

機器や電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。



接触禁止

使用中、使用直後に高温となる部分には触らない

使用中、使用直後は上面や高温注意マークの面には触れないでください。機器の放熱のために高温となっており、触れた場合にやけどをする恐れがあります。



高温注意



禁止

乾電池は充電しない

電池の破裂・液漏れにより、火災・けがの原因となります。



水場での使用禁止

風呂・シャワー室では使用しない

火災・感電の原因となります。



水ぬれ禁止

この機器の上に花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品や水などが入った容器、および小さな金属物を置かない

こぼれたり、中に入ったりした場合、火災・感電の原因となります。

⚠️ 注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が軽傷を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

⚠️ 注意
付属の電源コードを使用する
 他の機器の電源コードを本機に使用しないでください。
🚫 禁止
 また、付属の電源コードは本機以外には使用しないでください。
 電流量などの違いにより火災・感電の原因となることがあります。

⚠️ 必ず実施
電源コードは確実に接続し、束ねたまま使用しない
 電源コードを接続するときは接続口に確実に差し込んでください。差し込みが不完全な場合、火災・感電の原因となることがあります。
🚫 禁止
 根元まで差し込んでみがあるコンセントには接続しないでください。その場合、販売店や電気工事店にコンセントの交換を依頼してください。
 また、電源コードは束ねたまま使用しないでください。発熱し、火災の原因となることがあります。

🚫 禁止
電源コードを熱器具に近付けない
 コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

🚫 禁止
電源プラグを抜くときは
 電源コードを引っ張らずに必ずプラグを持って抜いてください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

🚫 ぬれ手禁止
濡れた手で電源プラグを抜き差ししない
 感電の原因となることがあります。

🔌 電源プラグをコンセントから抜く
すぐにコンセントから電源プラグを抜くことができるように設置する
 電源のスイッチを切ってもコンセントからは完全に遮断されていません。
 万一の事故防止のため、本機をコンセントの近くに置き、すぐにコンセントから電源プラグを抜くことができるようにしてください。

⚠️ 必ず実施
機器の接続は説明書をよく読んでからおこなう
 テレビ・オーディオ機器・ビデオ機器などの機器を接続する場合は、電源を切り、各々の機器の取扱説明書に従っておこなってください。
 また、接続には指定のコードを使用してください。指定以外のコードを使用したり、コードを延長したりすると発熱し、やけどの原因となることがあります。

⚠️ 必ず実施
電源を入れる前には音量を最小にする
 突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。

🚫 禁止
長時間音が歪んだ状態で使用しない
 スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

⚠️ 必ず実施
電池を使用するときは

- 極性表示に注意し、表示のとおり正しく入れる。
- 指定以外の電池は使用しない。
- 新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない。
- 電池は火のそばや直射日光のあたるところ、暖房器具などの高温の場所に置かないでください。
- 不要になった乾電池を廃棄するときはお住まいの地域の条例に従って処理してください。

 間違えると電池の破裂・液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

🚫 禁止
不安定な場所に置かない
 ぐらついた台の上や傾いたところなど不安定な場所に置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。

🚫 禁止
壁や他の機器から少し離して設置する
 放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面や背面から少し隙間をあけてください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

🚫 禁止
通風孔をふさがない
 内部の温度上昇を防ぐため、通風孔が開けてあります。次のような使いかたはしないでください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

🚫 禁止
次のような場所には置かない
 火災・感電の原因となることがあります。

- 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気があたるようなところ
- 湿気やほこりの多いところ
- 直射日光のあたるところや暖房器具の近くなど高温になる場所

⚠️ 必ず実施
壁や他の機器から少し離して設置する
 放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面や背面から少し隙間をあけてください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

🚫 禁止
通風孔をふさがない
 内部の温度上昇を防ぐため、通風孔が開けてあります。次のような使いかたはしないでください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

- あお向けや横倒し、逆さまにする
- 押し入れ・専用のラック以外の本箱など風通しの悪い狭い場所に押し込む
- テーブルクロスをかけた上、じゅうたん・布団の上に置いたりして使用する

🚫 禁止
ヘッドホンを使用するときは音量を上げすぎない
 耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聴くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

🚫 禁止
この機器に乗ったり、ぶら下がったりしない
 特に幼いお子様のいるご家庭では、ご注意ください。倒れたり、壊れたりして、けがの原因となることがあります。

🚫 禁止
重いものをのせない
 機器の上に重いものや外枠からはみ出るような大きなものを置かないでください。パランスがずれて倒れたり、落下したりして、けがの原因となることがあります。

🔌 電源プラグをコンセントから抜く
移動させるときは
 まず電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードを外してからおこなってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

🔌 電源プラグをコンセントから抜く
長期間の外出・旅行のとき、またはお手入れのときは
 安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災・感電の原因となることがあります。

⚠️ 注意
5年に一度は内部の掃除を
 販売店などにご相談ください。内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。
 特に、湿気の多くなる梅雨期の前におこなうと、より効果的です。なお、内部の掃除費用については販売店などにご相談ください。

目次

ご使用になる前に	2
安全上のご注意	2
目次	4
使用上のご注意	4
付属品を確認する	5
本機の特長	5

基本編 6

接続のしかた	7
接続に使用するケーブル	7
スピーカーの接続のしかた	7
再生機器の接続のしかた	9
録音機器の接続のしかた	10
電源コードの接続のしかた	10

操作編 11

操作のしかた	12
再生前の準備	12
再生のしかた	12
録音のしかた	13
オートスタンバイモードの設定のしかた	13

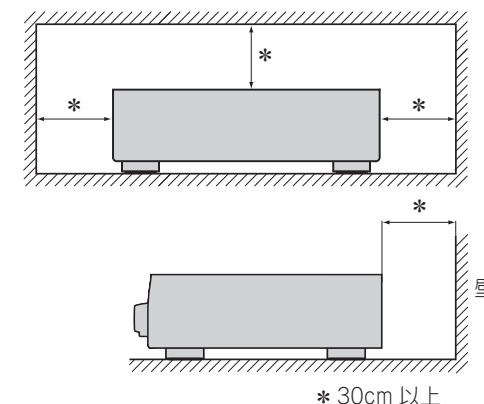
情報編 14

各部の名前	15
フロントパネル	15
リアパネル	16
リモコン	17
用語の解説	18
故障かな?と思ったら	19
保証と修理について	20
主な仕様	20

使用上のご注意

設置について

本機内部の放熱をよくするために、壁や他の機器との間は、十分に離して設置してください。



携帯電話使用時のご注意

本機の近くで携帯電話をご使用になると、雑音が入る場合があります。携帯電話は本機から離れた位置で使用してください。

お手入れについて

- キャビネットや操作パネル部分の汚れは、やわらかい布で軽く拭き取ってください。化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書きに従ってください。
- ベンジンやシンナーなどの有機溶剤および殺虫剤などが本機に付着すると、変質や変色の原因になりますので使用しないでください。

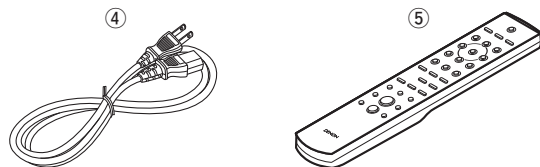
結露(つゆつき)について

本機を寒いところから急に暖かいところに移動させたり、本機を設置した部屋の温度を暖房などで急に上げたりすると、内部(動作部)に水滴が付くことがあります(結露)。結露したまま本機を使用すると、正常に動作せず、故障の原因となることがあります。結露した場合は、本機の電源を切ったまま1~2時間放置してから使用してください。

付属品を確認する

ご使用前にご確認ください。

- | | |
|-----------------------------|---|
| ① 取扱説明書..... | 1 |
| ② 保証書(梱包箱に貼り付けています)..... | 1 |
| ③ 製品のご相談と修理・サービス窓口のご案内..... | 1 |
| ④ 電源コード..... | 1 |
| ⑤ リモコン(RC-1179)..... | 1 |
| ⑥ 単4形乾電池..... | 2 |



本機の特長

Advanced UHC-MOS 採用シングルプッシュプル回路を搭載

パワーアンプの出力段に新世代の UHC-MOS FET を採用。定常電流は 30A → 70A に、瞬間電流では 120A → 210A にスケールアップ。

電圧増幅段についても初段をデュアル FET 選別品として温度変動による動作安定度を高めるほか、カスコードブートストラップ回路によって高域まで位相特性の安定化を図っています。

さらに大容量化した電源回路

Advanced UHC-MOS Single Push-pull Circuit の実力を最大限に引き出すために、LC マウントツイントランス、従来比 50% アップの電流容量を持つショットキーバリアダイオードと音質を練り上げたカスタムブロックタイプコンデンサーで構成された強力な電源。

フラットアンプ

プリアンプ部には贅沢なローカルスタビライザー電源を備えたフルディスクリート構成 FET 出力フラットアンプを搭載。

MM/MC 対応フォノイコライザ搭載

FET 入力のフォノイコライザ回路は MM/MC 対応でアナログレコードの熱心なユーザーにも十分満足していただけます。

パワーアンプダイレクト端子を装備

単体のパワーアンプとしても使用できるパワーアンプダイレクト入力を装備。オーディオシステムとホームシアターシステム等との組み合わせに便利です。

プリアウト端子を装備

別のパワーアンプと組み合わせてバイワイヤリング対応のスピーカーでバイアンプ駆動をしたり、サブウーハーを追加してシステムアップを図るなどシステムに発展性をもたらすプリアウト端子を装備。

徹底したメカニカルグラウンド思想

外部振動の影響を排除するとともに内部の振動源であるトランスの振動を増幅回路に伝えないために信号レベルごとにシールドされた 6 ブロック分割シャーシと高密度素材によるフットによってメカニカルグラウンド思想を追究。






ステレオ音のエチケット



- 隣近所への配慮(おもいやり)を十分にいたしましょう。
- 特に静かな夜間は、小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には、特に気を配りましょう。

基本編

ここでは、本機を操作するための接続方法を説明しています。

- 接続に使用するケーブル  7 ページ
- スピーカーの接続のしかた  7 ページ
- 再生機器の接続のしかた  9 ページ
- 録音機器の接続のしかた  10 ページ
- 電源コードの接続のしかた  10 ページ

接続のしかた

ご注意

- すべての接続が終わるまで、電源プラグをコンセントに差し込まないでください。
- 接続する機器の取扱説明書も必ずお読みください。
- 左右のチャンネルを確かめてから、正しく L と L、R と R を接続してください。
- 接続ケーブルは、電源コードやスピーカーケーブルと一緒に束ねないでください。雑音の原因になります。
- PHONO 端子は非常に感度の高い端子ですので、レコードプレーヤーを接続しないで音量を上げないでください。接続せずに音量を上げた場合、“プーン”という音がスピーカーから出ることがあります。

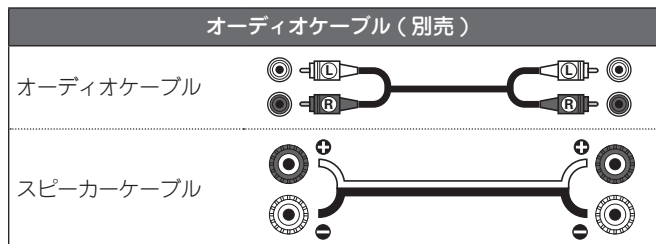
□ SA ソース再生時のご注意

SA ソース(DVD オーディオ、スーパーオーディオ CD などの可聴帯域を越える高域成分を含んでいるソース)に対応していないスピーカーを接続する場合は、プレーヤー(DVD プレーヤー、スーパーオーディオ CD プレーヤーなど)の特性をスピーカー(またはアンプ)に合わせて設定してください。

SA ソースの再生時に音量を上げすぎると、スピーカーを損傷することがあります。プレーヤーの設定については、プレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

接続に使用するケーブル

ご使用になる機器に合わせて、ケーブルをご用意ください。



スピーカーの接続のしかた

スピーカーケーブルを接続する

本機とお使いになるスピーカーの左チャンネル(L)、右チャンネル(R)、+(赤)、-(黒)をよく確認し、同じ極性を接続してください。

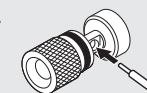
1 スピーカーケーブル先端の被覆を10mm程度はがし、芯線をしっかりとよじるなど端末処理をおこなう。



2 スピーカー端子を左に回してゆるめる。



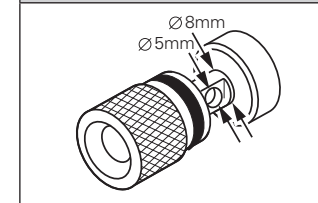
3 スピーカーケーブルの芯線をスピーカー端子の根元に差し込む。



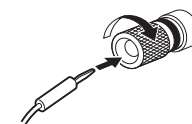
4 スピーカー端子を右に回してしめる。



スピーカー端子の寸法



バナナプラグをお使いになる場合は、端子を右に回して締めつけてから挿入してください。



ご注意

- 接続の際、スピーカーケーブルの芯線が端子からはみだして他の端子に接触しないようにしてください。またスピーカーケーブルの芯線どうし、および芯線がリアパネルやねじに接触しないようにご注意ください。故障の原因となります。
- 通電中は絶対にスピーカー端子に触れないでください。感電する場合があります。

スピーカーのインピーダンスについて

スピーカーの使用状況に応じてスピーカーのインピーダンスは次の範囲のものをお使いください。

接続するスピーカー端子	使用するスピーカーのインピーダンス
A または B	4 ~ 16 Ω
A と B の両方	8 ~ 16 Ω
パイワイヤリング接続	4 ~ 16 Ω

保護回路について

次のときに保護回路が動作します。

- スピーカーケーブルの芯線がリアパネルやねじに接触したり、スピーカーケーブルの+、-側が接触しているとき
- 本機の周囲の温度が異常に高くなったとき
- 長時間大出力で使用して内部の温度が上昇したとき

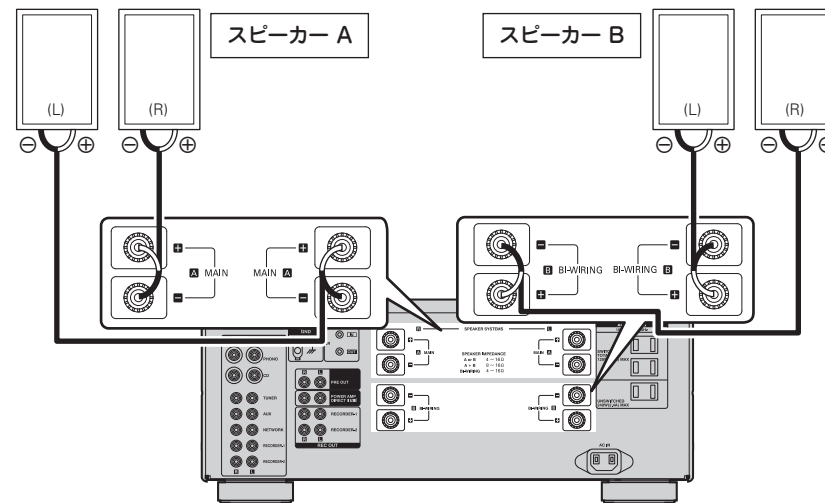
保護回路が動作すると、スピーカー出力は遮断され、電源表示が赤色に点滅します。このような場合は、電源コードを抜いてからスピーカーケーブルや入力ケーブルの接続を確認してください。

また、本機の温度が極端に上がっている場合は、本機が冷えるのを待ち、周囲の通風状態を良くしてください。そのあと、もう一度電源コードを入れ直してください。

本機の周囲の通風や接続に問題がないのにも関わらず、保護回路が動作する場合は、本機が故障していることも考えられますので、電源を切った上で、当社の修理相談窓口にご連絡ください。

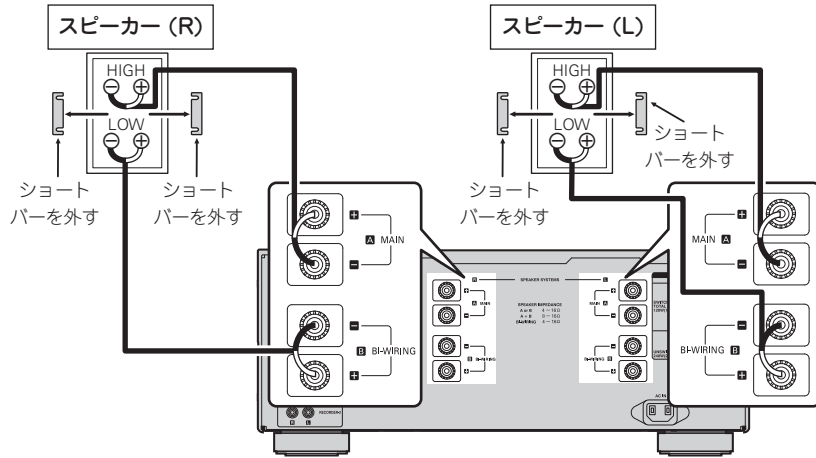
スピーカーの接続

- スピーカー A 端子と B 端子からは同じ信号を出力します。
- スピーカーを 1 組のみ接続するときはスピーカー A または B 端子のどちらかに接続してください。

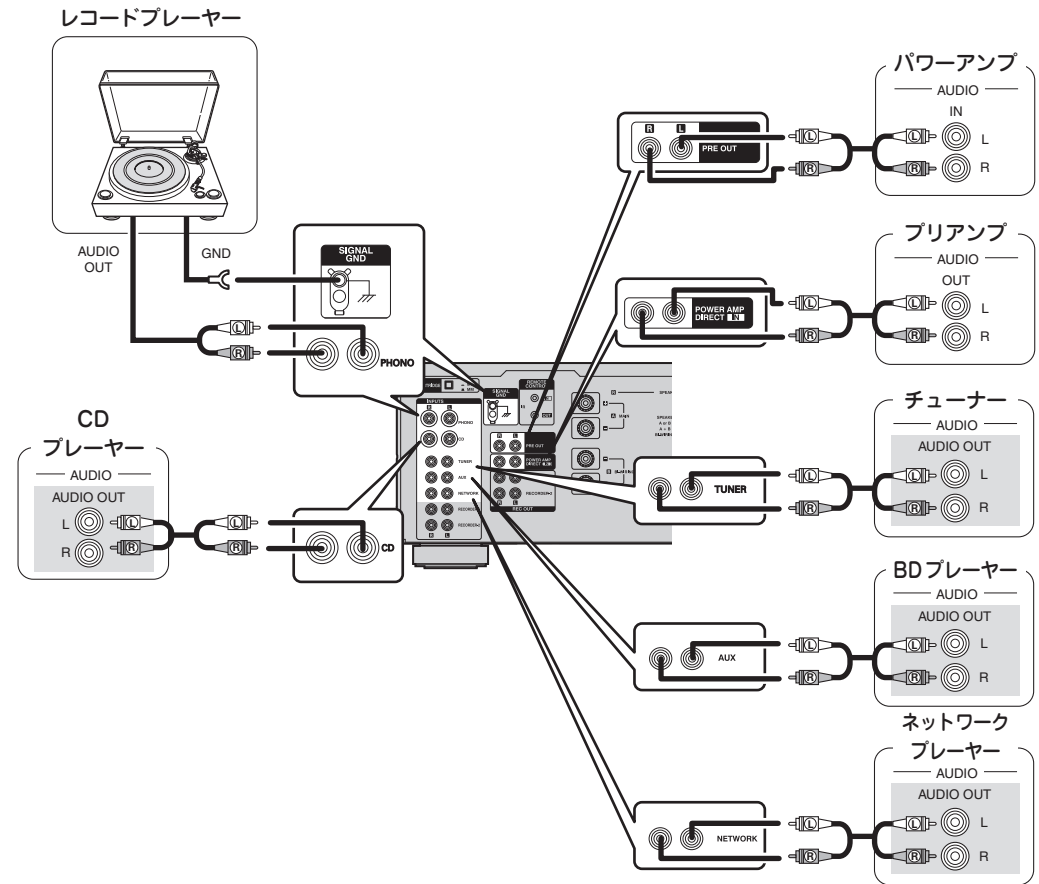


バイワイヤリング接続

- バイワイヤリング接続に対応しているスピーカーの高域用入力端子にスピーカーA(またはB)を、低域用入力端子にスピーカーB(またはA)をそれぞれ接続してください。
- この接続では高域用スピーカーユニットと低域用スピーカーユニット間の信号の干渉の影響を低くおさえることができるため、高品位な再生をお楽しみいただけます。



再生機器の接続のしかた

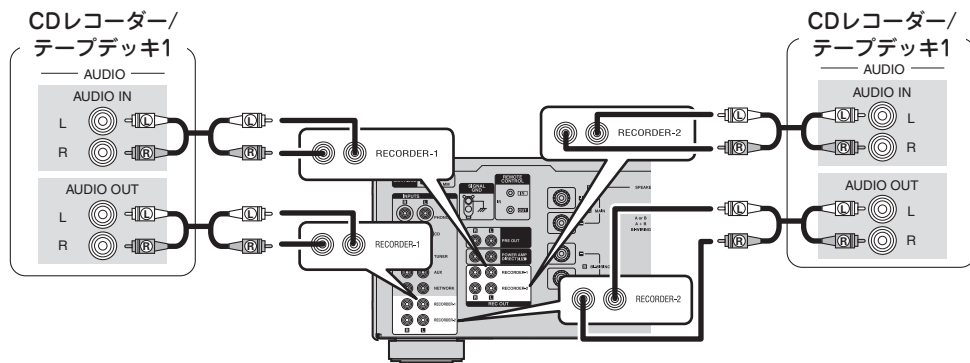


アース線を接続すると雑音が出る場合があります。このような場合、アース線は接続しないでください。

ご注意

PRE OUT 端子にショートピンプラグを装着しないでください。故障の原因になります。

録音機器の接続のしかた

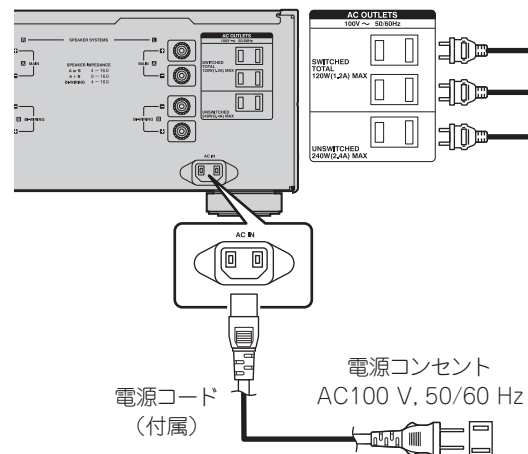


ご注意

録音出力(REC OUT) 端子にショートピンプラグを装着しないでください。故障の原因になります。

電源コードの接続のしかた

すべての接続が終わってから、電源コードを接続してください。



AC アウトレットへの接続について





- 外部の AV 機器に電源を供給するコンセントです。
- **SWITCHED**
(連動 2 口、合計最大容量 120W(1.2A))：
スタンバイおよび OFF 状態では、電源供給を停止します。
- **UNSWITCHED**
(最大容量 240W(2.4A))：
本機の電源ボタンの ON(●) / OFF(■)に関係なく、常に電源を供給します。

ご注意

- 電源プラグは確実に差し込んでください。不完全な接続は、雑音発生の原因になります。
- 接続する機器の消費電力の合計が最大容量(連動：120W(1.2A)、非連動：240W(2.4A))を超えないようにしてください。
- AC アウトレットへは、AV 機器の電源プラグを差し込んでください。ドライヤーなど AV 機器以外の電源としては使用しないでください。

操作編

ここでは、本機を正しくお使いいただくための操作方法や機能を説明しています。

- 再生前の準備  12 ページ
- 再生のしかた  12 ページ
- 録音のしかた  13 ページ
- オートスタンバイモードの設定のしかた  13 ページ

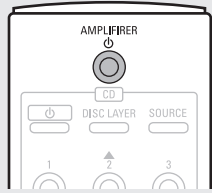
操作のしかた

再生前の準備

- 1 本体の **VOLUME** で音量を最小にする。
- 2 本体の **SOURCE DIRECT** を“**■OFF**”にする。
- 3 本体の **BASS**、**TREBLE** および **BALANCE** を中央の位置にする。
- 4 本体の **⏻** を押して、電源を入れる。
電源表示が数秒間赤色に点滅したあと、緑色に点灯します。

電源を切る

- 1 **AMPLIFIER** **⏻** を押す。
電源がスタンバイ状態になります。
- 2 本体の **⏻** を押す。
電源表示が消灯して、電源が切れます。



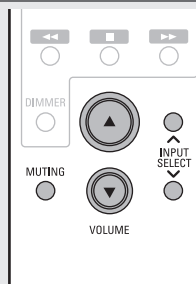
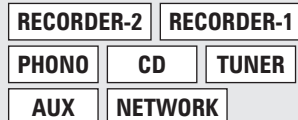
ご注意

電源をスタンバイ状態にしても、一部の回路は通電しています。長期間の外出やご旅行の場合は、本体の **⏻** を押して電源を切るか、電源プラグをコンセントから抜いてください。

再生のしかた

- 1 **INPUT SELECT** を押して、再生するソースを選ぶ。
本体の入力ソース表示が点灯します。

【選択できるソース】



- 2 選択したソースを再生する。
- 3 **VOLUME** **▲▼** で好みの音量に調節する。
- 4 本体の **BASS**、**TREBLE** および **BALANCE** を調節する。
 - 本体の **VOLUME** を時計の 12 時の位置よりも右に回すと、調節した **BASS** と **TREBLE** の効果を抑えて再生します。
 - 本体の **VOLUME** を右いっぱいまで回しきると、**BASS** と **TREBLE** の調節は無効になります。



本体の **INPUT SELECTOR** つまみを回すと、次のように入力ソースが切り替わります。



□ソースダイレクト再生について

- 本体の **SOURCE DIRECT** スイッチを“**■ON**”にすると、音声信号は音質調節回路(**BASS**、**TREBLE** および **BALANCE**)を通らないため、より原音に忠実な再生ができます。
- 音質の調節をおこなうときは、**SOURCE DIRECT** スイッチを“**■OFF**”にしてください。

□音声をミュートするには

音声の出力を止め、消音することができます。

MUTING を押す。

- 本体の電源表示が赤色に点滅します。
- もう一度押すと、音が出ます。

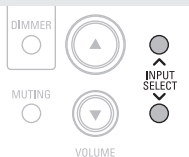
□パワーアンプダイレクト端子に接続された機器を再生するには

本体の **POWER AMP DIRECT** を押す。

- “**■ON**”にすると、リアパネルのパワーアンプダイレクト端子に接続した機器を再生することができます。このとき入力表示は消灯します。
- “**■OFF**”にすると、**INPUT SELECTOR** つまみで選択したプログラムソースを再生することができます。このとき入力表示は点灯します。

録音のしかた

1 INPUT SELECT を押して、録音したい入力ソースを切り替える。



2 録音機器を録音状態にする。

3 録音するソースの再生をはじめる。



本体の **SOURCE DIRECT** スイッチが“**ON**”のときは、録音出力端子(REC OUT)に信号は出力されません。

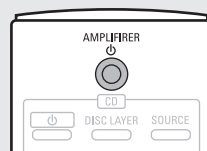
オートスタンバイモードの設定のしかた

何も操作をしない状態やオーディオ信号の入力がない状態が30分以上続くと、本機の電源は自動的にスタンバイになります。

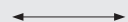
• お買い上げ時の設定はオンです。

AMPLIFIER  を5秒以上押す。

- オートスタンバイモードのオンとオフが切り替わります。
- スタンバイ中の電源表示が次のように切り替わります。



オートスタンバイモード“オフ”
“赤色”



オートスタンバイモード“オン”
“消灯”







- オートスタンバイモードの設定操作中は電源表示が赤色に点滅します。



電源がオンのときにオートスタンバイモードの設定操作をおこなうと、設定完了と同時に本機はスタンバイになります。

情報編

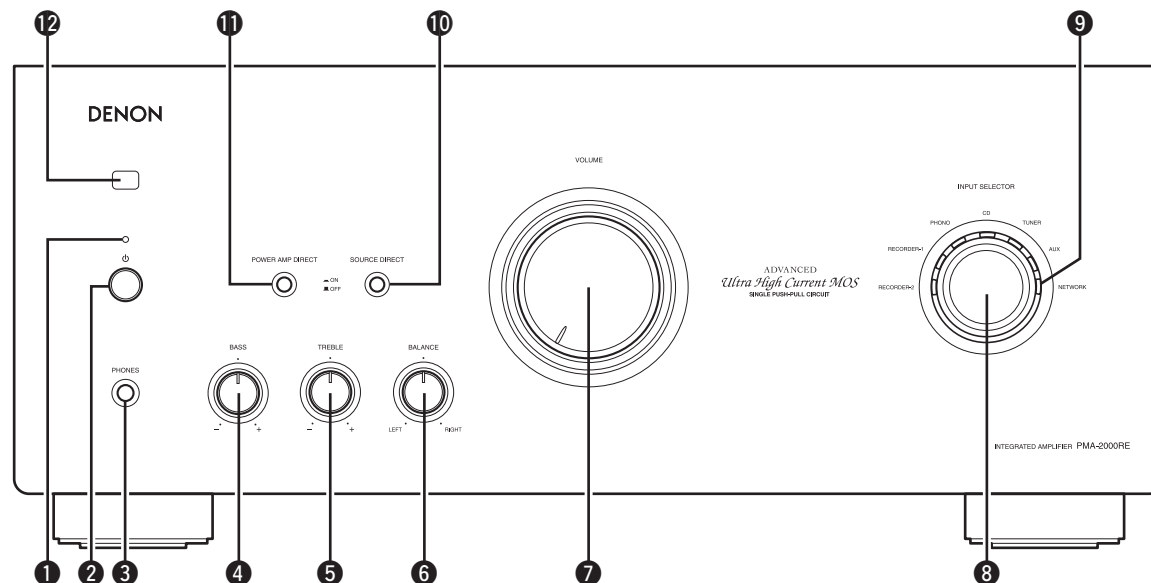
ここでは本機に関するさまざまな情報を記載しています。
必要に応じてご覧ください。

- 各部の名前  15 ページ
- 用語の解説  18 ページ
- 故障かな?と思ったら  19 ページ
- 保証と修理について  20 ページ
- 主な仕様  20 ページ
- 索引  21 ページ

各部の名前

各部のはたらきなど詳しい説明については、()内のページを参照してください。

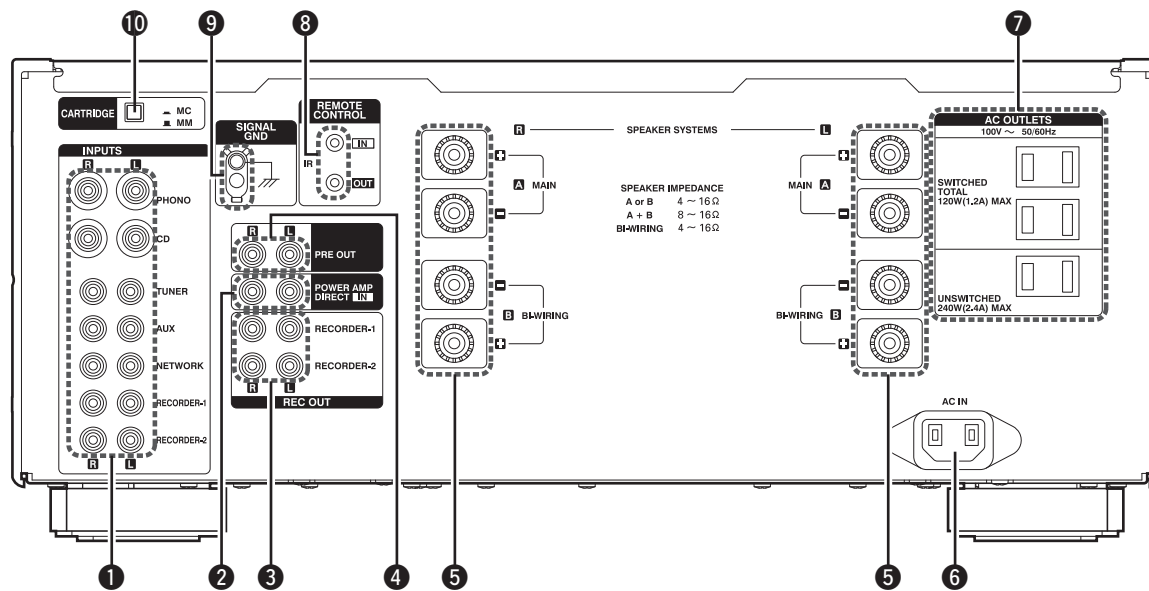
フロントパネル



- ① 電源表示 (12)
 - 本機の状態により次のように変わります。
 - 電源オン後数秒間： 赤色(点滅)
 - 電源オン時： 緑色
 - ミューティング時： 赤色(点滅)
 - スタンバイ時： 赤色
 - 電源オフ時： 消灯
 - オートスタンバイ時： 消灯
- ② 電源スイッチ(⏻) (12)
- ③ ヘッドホンジャック (PHONES)
 - ヘッドホン(別売り)でお楽しみいただくときに使用します。
 - ヘッドホンを使用する場合は、ヘッドホンプラグを差し込みます。ヘッドホンプラグを差し込むとスピーカー出力は自動的に切れますので、スピーカーから音は出ません。
- ④ 低音調節つまみ(BASS) (12)
- ⑤ 高音調節つまみ(TREBLE) (12)
- ⑥ バランス調節つまみ (BALANCE) (12)
- ⑦ 音量調節つまみ(VOLUME) (12)
- ⑧ 入力ソース切り替えつまみ (INPUT SELECTOR) (12)
- ⑨ 入力ソース表示 (12)
- ⑩ ソースダイレクトスイッチ (SOURCE DIRECT) (12)
- ⑪ パワーアンプダイレクトスイッチ (POWER AMP DIRECT) (12)
- ⑫ リモコン受光部 (18)

ご注意

- ④ 低音調節つまみ、⑤ 高音調節つまみ、⑥ バランス調節つまみはソースダイレクトスイッチが“■OFF”のときに調節できます。
- 音量調節つまみが中央より右側にあるとき、低音調節つまみまたは高音調節つまみで可変できる範囲は減少します。
- 音量調節つまみを右に回し切ると、低音 / 高音とも可変できなくなります。
- パワーアンプダイレクトスイッチを“■ON”にすると、本機で音量やバランス、トーンを調節しても効果がありません。音量の調節は、入力側の機器でおこなってください。
- パワーアンプダイレクトスイッチが“■ON”の場合、本機は最大の音量になっています。再生する前に入力側の機器の出力レベルを確認し、音量を調節してください。



- ① 入力端子 (INPUTS) (9, 10)
- ② パワーアンプダイレクト端子 (POWER AMP DIRECT) (9)
 パワーアンプへ直接入力する端子です。
 音量の調整は、接続する機器の側でおこなってください。
- ③ 録音出力端子 (REC OUT) (10)
- ④ プリアウト端子 (PRE OUT) (9)
- ⑤ スピーカー端子 (SPEAKER SYSTEMS) (8, 9)

- ⑥ ACインレット (AC IN)
- ⑦ ACアウトレット (AC OUTLETS) (10)
- ⑧ リモートコントロール端子 (REMOTE CONTROL)
 将来的な拡張用の端子です。
- ⑨ アース端子 (SIGNAL GND) (9)

ご注意

- この端子は安全アースではありません。
- アース線を接続すると雑音が出る場合があります。このような場合、アース線は接続しないでください。

- ⑩ カートリッジ切り替えスイッチ (CARTRIDGE)
 使用するレコードプレーヤーのカートリッジの種類により、このスイッチを押して MM (■) または MC (■) に切り替えてください。

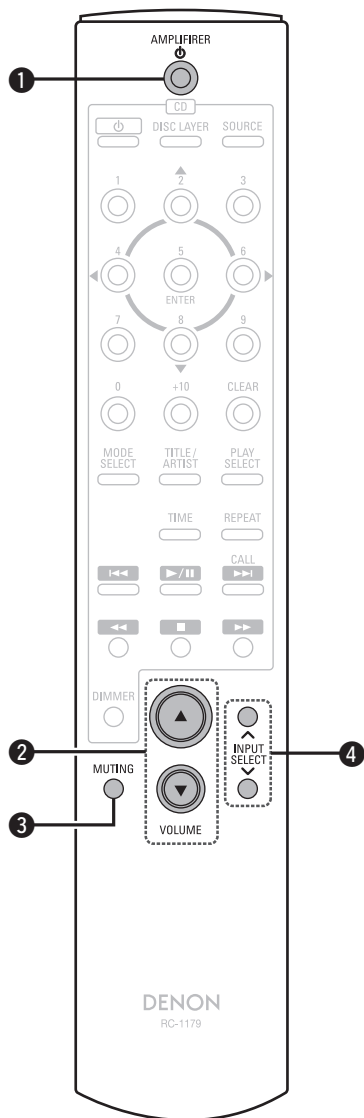


- PHONO 入力端子にはショートピンプラグが付属していません。レコードプレーヤーを接続する際は外してください。外したショートピンプラグは大切に保管してください。
- プリアウト端子はヘッドホン使用時にも信号が出力されます。信号を遮断したい場合は、接続した機器 (パワーアンプなど) で操作してください。

リモコン

ここでは、このリモコンで操作できる機器ごとに操作ボタンを説明します。

アンプの操作

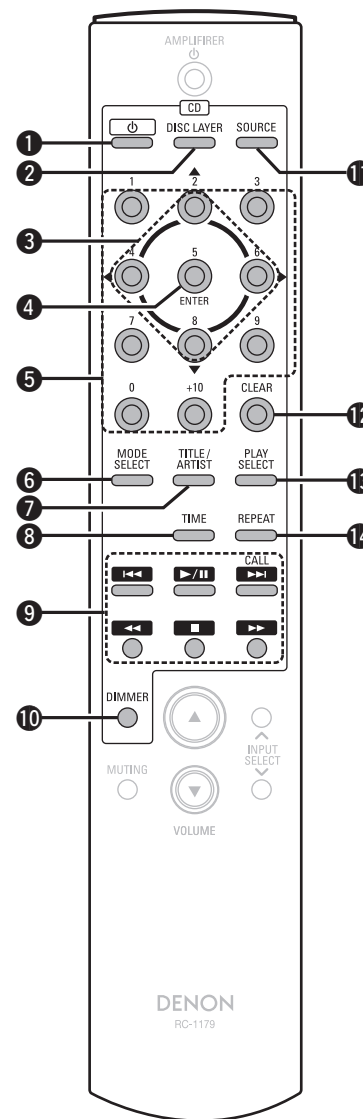


- ① 電源ボタン (AMPLIFIER 0).....(12, 13)
- ② 音量調節ボタン(VOLUME ▲▼).....(12)
- ③ ミューティングボタン (MUTING).....(12)
- ④ 入力ソース切り替えボタン (INPUT SELECT).....(12, 13)



- このリモコンでは、DENON 製の CD プレーヤーの操作ができます。
- ご使用の際は、各機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。
- 一部操作ができない製品もあります。

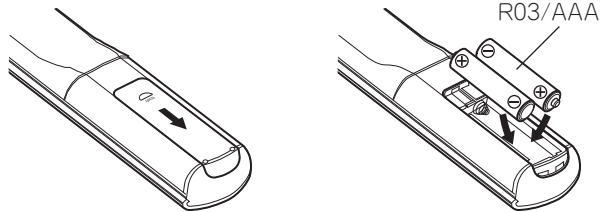
CD プレーヤーの操作



- ① 電源ボタン(CD 0)
- ② ディスクレイヤーボタン (DISC LAYER)
- ③ カーソルボタン(▲▼◀▶)
- ④ エンターボタン(ENTER)
- ⑤ 番号ボタン(0~9, +10)
- ⑥ モード選択ボタン(MODE SELECT)
- ⑦ タイトル/アーティスト切り替えボタン (TITLE/ARTIST)
- ⑧ タイムボタン(TIME)
- ⑨ 再生操作ボタン
 - スキップボタン(◀◀, ▶▶)
 - プレイ / ポーズボタン(▶/||)
 - コールボタン(CALL)
 - 早送り / 早戻しボタン(◀◀, ▶▶)
- ⑩ ディマーボタン(DIMMER)
- ⑪ ソース切り替えボタン(SOURCE)
- ⑫ クリアーボタン(CLEAR)
- ⑬ 再生選択ボタン(PLAY SELECT)
- ⑭ リピートボタン(REPEAT)

乾電池の入れ方

- 裏ふたを矢印の方向へずらして取り外す。
- 乾電池(2本)を乾電池収納部の表示に合わせて正しく入れる。



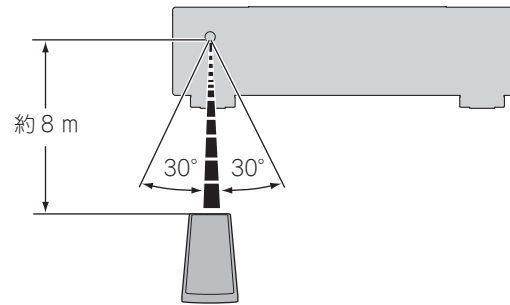
- 裏ふたを元どおりにする。

ご注意

- リモコンには単4形乾電池をご使用ください。
- リモコンを本機の近くで操作しても本機が動作しないときは、新しい乾電池と交換してください。(付属の乾電池は動作確認用です。早めに新しい乾電池と交換してください。)
- 乾電池は、リモコンの乾電池収納部の表示どおりに ⊕ 側・⊖ 側を合わせて正しく入れてください。
- 破損・液漏れの恐れがありますので、
 - 新しい乾電池と使用済みの乾電池を混ぜて使用しないでください。
 - 違う種類の乾電池を混ぜて使用しないでください。
 - 乾電池は充電しないでください。
 - 乾電池をショートさせたり、分解や加熱または火に投入させたりしないでください。
 - 電池を直射日光のあたるところや暖房器具の近くなど高温になるところに置かないでください。
- 万一、乾電池の液漏れがおこったときは、乾電池収納部内についた液をよく拭き取ってから新しい乾電池を入れてください。
- リモコンを長期間使用しないときは、乾電池を取り出してください。
- 不要になった乾電池を廃棄するときは、お住まいの地域の条例に従って処理をしてください。
- 充電式電池をお使いの場合、正しく動作しない場合があります。

リモコンの使いかた

リモコンはリモコン受光部に向けてご使用ください。



ご注意

- リモコン受光部に、直射日光やインバーター式蛍光灯の強い光または赤外線があたると、誤動作をしたり、リモコンが操作できなくなったりする場合があります。
- 3D映像機器を構成している各ユニット(モニター、3D視聴用メガネ、3D信号伝送ユニットなど)間の信号の伝送を無線通信(赤外線通信など)でおこなっている3D映像機器をお使いの場合、その無線通信の影響によって本機のリモコンが効かなくなることがあります。そのときは3D通信の各ユニットの向きと距離を調節して、本機のリモコンの動作に影響がないことを確認してください。

用語の解説

M

MM/MC カートリッジ切り替え

レコードプレーヤーに取り付けるカートリッジには、MM型(Moving Magnet)と、MC型(Moving Coil)の2種類があります。それら2種類の出力レベルはそれぞれ異なるため、本機に搭載しているフォノイコライザーアンプの設定を、お使いのカートリッジの種類に合わせて切り替える必要があります。設定の切り替えはリアパネルのカートリッジ切り替えスイッチでおこないます。

さ行

スピーカーインピーダンス

交流抵抗値のことで、 Ω (オーム)という単位であらわします。この値が小さいほど大きな出力が得られますが、アンプにかかる負担は増えます。本機が対応しているインピーダンスのスピーカーをお使いください。

ソースダイレクト

入力された音声信号を、音質調節回路(低音/高音/バランス)を通さずに出力するため、より原音に忠実な再生がおこなえます。

は行

バイワイヤリング接続

1台のスピーカーに対してスピーカーケーブルを2本使い、高域と低域のそれぞれの信号を別々に伝送する接続方法です。この接続では広域用スピーカーユニットと低域用スピーカーユニット間の信号の干渉の影響をおさえることができるため、高品位な再生をお楽しみいただけます。

保護回路

何らかの原因で過負荷や過電圧などの異常が起きたときに、本機の電源をスタンバイ状態にする機能です。過負荷や過電圧から本機内部の回路の破損を防ぎます。

故障かな？と思ったら

□ 各接続は正しいですか

□ 取扱説明書に従って正しく操作していますか

□ スピーカーやプレーヤーは正しく動作していますか

本機が正常に動作しないときは、次の表に従ってチェックしてみてください。

なお、この表の各項にも該当しない場合は本機の故障とも考えられますので、お買い上げの販売店にご相談ください。

もし、お買い上げの販売店でお分かりにならない場合は、当社のお客さま相談センターまたはお近くの修理相談窓口にご連絡ください。

症状	原因	対策	関連ページ
電源を入れても、電源表示が点灯せず音が出ない。	•電源コードプラグの差し込みが不完全である。	•電源コードプラグの差し込みを点検してください。	10
本機をご使用中に突然電源が切れ、電源表示が約1秒間隔で、赤色に点滅している。	•機器内部の温度上昇により、保護回路が働いています。	•一度電源を切って、本体の温度が十分下がってから、電源を入れ直してください。	8
		•本機を風通しの良い場所に設置し直してください。	8
本機をご使用中に突然電源が切れ、電源表示が約0.5秒間隔で、赤色に点滅している。	•本機が対応しているインピーダンスのスピーカーを使用していない。 •スピーカーケーブルの芯線どうしが接触したり、芯線が端子から外れたりして、芯線が本機のリアパネルに接触したため、保護回路が働いています。	•指定されたインピーダンスのスピーカーを使用してください。	8
		•電源コードを抜き、芯線をしっかりおよびり直すか、端末処理をするなどしたあとで、もう一度接続し直してください。	7
電源を入れても、電源表示が約0.5秒間隔で、赤色に点滅している。	•本機のアンプ回路が故障しています。	•電源を切り、当社の修理相談窓口までご連絡ください。	-

症状	原因	対策	関連ページ
電源表示は点灯するが、音が出ない。	•スピーカーケーブルの接続が不完全である。 •入力ソース切り替えつまみの位置が不適当である。 •音量調節つまみが最小になっている。 •入力ケーブルの接続が不完全である。	•確実に接続してください。 •正しい位置に切り替えてください。 •適当な位置まで回してください。 •確実に接続してください。	7, 8, 9 12 12 9
左右のスピーカーの片側だけ音が出ない。	•スピーカーケーブルの接続が不完全である。 •入力ケーブルの接続が不完全である。 •左右のバランスがずれている。	•確実に接続してください。 •確実に接続してください。 •バランス調節つまみを正しく調節してください。	7, 8, 9 9 12
ステレオのときに、各楽器の位置が左右入れ替わっている。	•スピーカーや入力ケーブルの接続が左右逆になっている。	•左右の接続を確かめてください。	7, 8, 9
レコード再生のときに、再生音と一緒に“ブーン”という音が出る。	•プレーヤーのアース線が外れている。 •PHONO端子の接続が不完全である。 •プレーヤーの近くにテレビやAV機器などがあるため、影響を受けている。	•確実に接続してください。	9
		•設置位置を変えてみてください。	-
レコード再生のときに音量を大きくすると再生音と一緒に“ワーン”という音が出る。(ハウリング現象)	•プレーヤーとスピーカーとの距離が近すぎる。 •スピーカーの振動が床を通してプレーヤーに伝わっている。	•できるだけ離して設置してください。 •スピーカーの振動をクッションなどで吸収させてください。	- -
レコード再生のときに音がひずんで聞こえる。	•針圧が適当でない。 •針先にゴミがついている。 •カートリッジの不良。	•正しい針圧に調整してください。	-
		•針先を確かめてください。	-
		•カートリッジを交換してください。	-

保証と修理について

□保証書

この製品には保証書が添付されております。保証書は、必ず「販売店名・購入日」などの記入を確かめて販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みの上、大切に保管してください。

保証期間はご購入日から1年間です。

保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

ご注意

保証書が添付されない場合は、有料修理になりますので、ご注意ください。

保証期間経過後の修理

修理によって機能が維持できる場合は、お客様の要望により、有料修理致します。有料修理の料金については、「製品のご相談と修理・サービス窓口のご案内」に記載の、お近くの修理相談窓口へお問い合わせください。

□修理を依頼されるとき

修理を依頼される前に

- 取扱説明書の「故障かな?と思ったら」の項目をご確認ください。
- 正しい操作をしていただかずに修理を依頼される場合がありますので、この取扱説明書をお読みいただき、お調べください。

修理を依頼されるとき

- 添付の「製品のご相談と修理・サービス窓口のご案内」に記載の、お近くの修理相談窓口へご相談ください。
- 修理を依頼されるときのために、梱包材は保存しておくことをおすすめします。

□依頼の際に

連絡していただきたい内容

- お名前、ご住所、お電話番号
- 製品名 …… 取扱説明書の表紙に表示しています。
- 製造番号 … 保証書と製品背面(または底面や側面)に表示しています。
- できるだけ詳しい故障または異常の内容

□補修部品の保有期間

本機の補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後8年です。

□お客様の個人情報の保護について

- お客様にご記入いただいた保証書の控えは、保証期間内のサービス活動およびその後の安全点検活動のために記載内容を利用させていただく場合がございますので、あらかじめご了承ください。
- この商品に添付されている保証書によって、保証書を発行している者(保証責任者)およびそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

主な仕様

□パワーアンプ部

定格出力：
両チャンネル駆動(CD → SP OUT)
80W + 80W(負荷 8 Ω, 20Hz ~ 20kHz T.H.D 0.07%)
160W + 160W(負荷 4 Ω, 1kHz, T.H.D 0.7%)
全高周波ひずみ率：
0.01%(定格出力 - 3dB 時)、負荷 8 Ω, 1kHz
出力端子：
スピーカー/A または B : 負荷 4 ~ 16 Ω, A + B : 負荷 8 ~ 16 Ω
パイワイヤリング : 負荷 4 ~ 16 Ω
ヘッドホン / ステレオヘッドホン適合

□プリアンプ部

プリアウト出力：
イコライザーアンプ出力
(REC OUT 端子)：
入力感度 / 入力インピーダンス：
定格出力 0.9V
定格出力 150mV
PHONO(MM) : 2.5mV/47k Ω
PHONO(MC) : 200μV/100 Ω
CD, TUNER, AUX, NETWORK, RECORDER-1, RECORDER-2
: 135mV/47k Ω(ソースダイレクトオフ)
: 135mV/23k Ω(ソースダイレクトオン)
PHONO : 20Hz ~ 20kHz ± 0.5dB

RIAA 偏差：

□総合特性


SN 比：
(A ネットワーク)
PHONO(MM) : 89dB(入力端子短絡、入力信号 5mV 時)
PHONO(MC) : 74dB(入力端子短絡、入力信号 0.5mV 時)
CD, TUNER, AUX, NETWORK, RECORDER-1, RECORDER-2
: 108dB(入力端子短絡時)
周波数特性：
トーンコントロール：
5Hz ~ 100kHz(0 ~ -3dB)
BASS(低域) : 100Hz ± 8dB
TREBLE(高域) : 10kHz ± 8dB

□総合

AC アウトレット：
UNSWITCHED(非連動)1 個 : 容量 240W(2.4A)
SWITCHED(連動)2 個 : 合計容量 120W(1.2A)
電源：
消費電力：
AC 100V 50/60Hz
360W(電気用品安全法による)
0.2W(スタンバイ時)

●仕様および外観は改良のため、予告なく変更することがあります。
●本機を使用できるのは日本国内のみで、外国では使用できません。

●本機は国内仕様です。
必ず AC 100V のコンセントに電源プラグを差し込んでご使用ください。AC 100V 以外の電源には絶対に接続しないでください。



索引

👉 M

MM/MC カートリッジ切り替え 18

👉 お

オートスタンバイモード 13

音質の調節 12

音量の調節 12

👉 か

乾電池 18

👉 け

ケーブル

オーディオケーブル 7

スピーカーケーブル 7

電源コード 10

結露 4

👉 す

スピーカーインピーダンス 8、18

👉 せ

接続

再生機器 9

スピーカー 7

電源コード 10

レコーダー 10

接続に使用するケーブル 7

👉 そ

ソースダイレクト (SOURCE DIRECT) 12、18

👉 に

入力ソース切り替え 12

👉 は

バイワイヤリング 9、18

バランス調節 (BALANCE) 12

👉 ふ

付属品 5

👉 ほ

保護回路 8、18

👉 み

ミュート 12

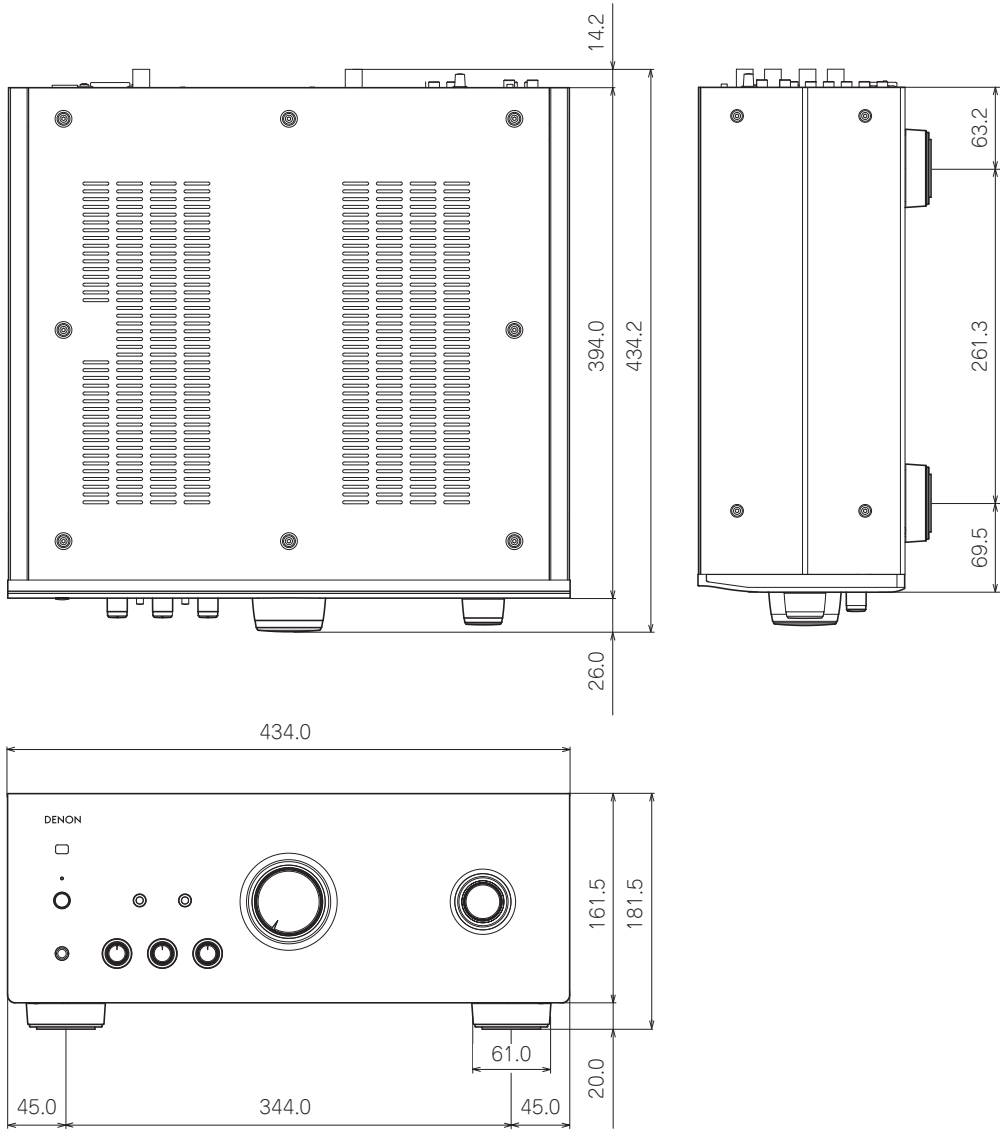
👉 り

リモコン 17



寸法

単位：mm



質量：24.4kg

DENON

デノンお客様相談センター

☎ 0570 (666) 112

【電話番号はお間違えのないようにおかけください。】

IP 電話をご利用の場合など、プロバイダーのサービスによってはつながらない場合があります。その場合は 03 (3570) 5138 におかけください。

受付時間 9:30 ~ 17:30

(当社休日および祝日を除く、月~金曜日)

〒210-8569 神奈川県川崎市川崎区日進町2番地1 D&Mビル

故障・修理・サービス部品についてのお問い合わせ先（サービスセンター）については、次の当社ホームページでもご確認いただけます。

<http://denon.jp/jp/support/pages/servicecenter.aspx>

株式会社 デイアンドエムホールディングス